

## 医師の勤務環境把握に関する研究

令和3年度 分担研究報告書

研究代表者	小池 創一	自治医科大学地域医療学センター 地域医療政策部門・教授
研究分担者	福井 次矢	東京医科大学茨城医療センター・病院長
	谷川 武	順天堂大学大学院 医学研究科公衆衛生学講座・教授
	片岡 仁美	岡山大学病院 ダイバーシティ推進センター・教授
	吉村 健佑	千葉大学医学部附属病院次 世代医療構想センター・特任教授
	和田 裕雄	順天堂大学大学院 医学研究科 公衆衛生学講座・先任准教授
	佐藤 香織	国士舘大学 経営学部 経営学科・准教授

### 研究要旨

医師の勤務状況については、これまで2回、厚生労働科学研究班において大規模な自計式の勤務実態調査が実施されているが、回答する医師の負担がより少なく、かつより正確性を損なわない調査への期待は大きい。本研究では、2024年の医師の時間外労働に関する上限規制の導入前の現状及びこれまでの医師の働き方改革の進捗状況を把握するために、今年度には過去2回と同規模の自計式による医師の勤務実態調査を行うこととしている。このため、本年度は、10医療機関において詳細な記録から簡易な記録まで複数の調査票を用いて医師の勤務時間に関する自計式調査を行い、同時に実施する他計式調査と比較することで、記入者負担を最小限にしながら正確な勤務実態把握が可能となる自計式調査の方法について検討を行うことを目的とした。その結果、詳細な調査票にすれば、自計式、他計式の差は小さくなるものの、記入者負担が増加していることが改めて確認され、勤務状況をどの程度詳細に把握する必要があるかという目的に沿った調査票設計が重要であることが改めて確認された。また、勤務状況を把握する上で、診療現場の医師は特に診療外の業務の範囲について調査回答時に迷いを感じており、調査票の設計上の工夫に加え、医療機関・医師双方に対し労働時間の範囲に関する周知活動の重要性が示唆されたものと考えられる。

### A. 研究目的

2024年に医師の時間外労働の上限規制が導入されることを踏まえ、また、働き方改革の目標年度である2036年度に向け、医師の

勤務実態を明らかにするとともに、将来的に、医師の労働時間を継続的に把握するための方法を検討する必要がある。

医師の勤務状況については、これまで、平成28年度、令和元年度に厚生労働科学研究

班において大規模な調査が実施されているが、回答する医師の負担がより少なく、かつより正確性を損なわない調査への期待は大きい。特に、2024年の医師の時間外労働に関する上限規制の導入前には、過去と同程度の医師の勤務実態調査を行い、これまでの医師の働き方改革の進捗状況や、上限規制導入前の状況を把握把握する必要があることから、記入者負担を最小限にしながら医師の勤務実態を詳細に把握することが不可欠である。

そこで、本年度の本研究班では、10の医療機関において詳細な記録から簡易な記録まで複数の調査票を用いて医師の勤務時間に関する自計式調査を行い、同時に実施する他計式調査と比較することで、記入者負担を最小限にしながら正確な勤務実態が把握できる自計式調査の方法について検討を行うこととした。

この結果を踏まえ、翌年度となる令和4年度には、医師の働き方改革の進捗状況を評価することを目的とした大規模調査（平成28年度及び令和元年度実施調査のフォローアップ調査）を行うこととしており、これらを通じて、医師の勤務の特殊性を踏まえつつ、医療提供体制を維持することが可能な医師の勤務環境についての議論を進める上で必要となる基礎データが得ることを目指すこととしている。

## B. 研究方法

本研究では、病院の種別・病床規模・地域

分布を考慮し、病院団体の推薦を受け、医療機関から協力を得られた5病院と、研究班において個別に協力依頼を行い協力が得られた5病院、計10病院を対象に「医師の勤務把握に関する調査」として、調査協力施設の特性と調査対象者の医療機関としての勤務時間把握の方法を調査する「施設調査」及び医師の勤務実態把握と調査回答するにあたっての課題について把握するための「医師調査」を実施した。

表1 調査対象医療機関の概要

番号	分類	病床数	地域
1	公的病院	600~699床	東京都下
2	公的病院	300~399床	地方中枢都市
3	民間病院	900床以上	地方中枢都市
4	民間・専門病院	200~299床	地方都市
5	民間病院	100~149床	地方都市
6	公立病院	600~699床	地方都市
7	公的病院	400~499床	首都圏
8	医育機関	500~599床	北関東
9	医育機関	600~699床	首都圏
10	公立・専門病院	300~399床	首都圏

医療施設調査では、施設属性として、所在地、指定、許可病床数、標榜診療科目、医師数、医師票の協力者の雇用形態、施設として把握している勤務時間について施設担当者に回答を求めた。（調査票 別添1）

医師調査は、調査協力医療機関を通じて、臨床研修医を除く60歳未満の医師で、専攻医、指導医、その他の医師がおおむね1/3ずつ、また、特定の診療科に集中しないように留意しつつ協力者を募り、93人の協力を得て調査を実施した。医師調査票では、医師属性（性別、医籍登録年、雇用形態、主たる診療科、専門医、1週間の勤務状況、労働時間）の他、調査票記載の状況

について回答を求めた。このうち、勤務時間調査については、調査期間（連続する7日間）において、医師自身が業務内容等ごとに業務等について所要時間を矢印や数値で記入する方式とし、記入負担の程度に応じた4パターンの記入様式を用いた。（調査票 別添2）

なお、調査対象者の一部については勤務日のうち1日について、調査員が調査対象医師と行動を共にして勤務実態を記録する他計式タイムスタディ調査、スマートフォンによる勤務実態調査も実施した。（詳細については、各分担研究報告書を参照されたい。）調査の一部については、PwCコンサルティング合同会社に委託して実施した。

調査結果の分析では、各調査項目について集計を行った他、自計式調査と他形式調査を同時に実施した場合の差異について、診療業務・診療外業務・休憩時間のそれぞれについて比較した他、医療機関が把握している勤務時時間と自計式調査における勤務時間との差異について集計・分析を行った。

#### （倫理的配慮）

本研究は、自治医科大学 医学系倫理審査委員会の審査・承認（2021年8月31日 臨大21-056）を得て実施した。

## C. 研究結果

### （1）調査対象施設・医師の属性

調査対象医療機関の2024年からの医師の時間外労働の適用について複数回答で聞いたところ、B水準が最も多く6施設（50%）、次いでA水準5施設（50%）あった。未定は1施設（10%）であった。（図1）また、宿日直勤務の労働基準監督署の許可の取得は8施設（80%）において行われていた。（図2）

図1 2024年度からの医師の時間外労働の適用（複数回答）

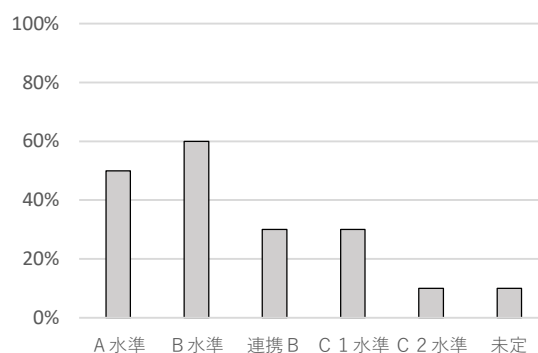
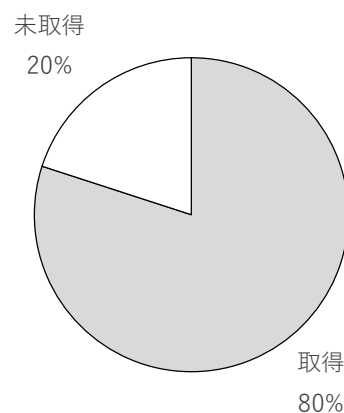


図2 宿日直勤務の労働基準監督署の許可の取得状況



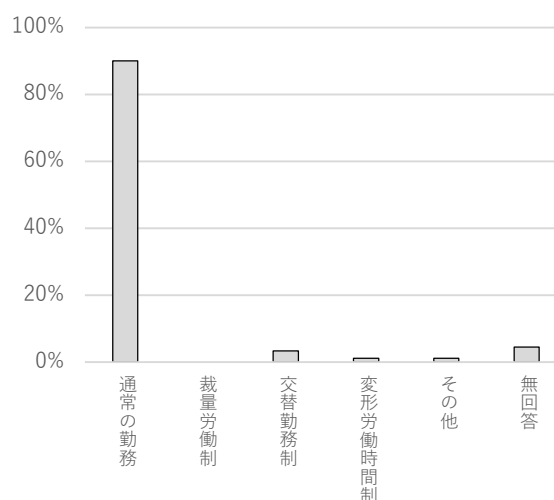
また、調査対象となった93名の医師の属性は、男性が74名と約8割を占め、30代が最

も多く 43 名 (46.2%)、次いで 40 代が 25 名 (26.9%) であった。(表 2) また、常勤医 90 名について、その勤務形態は、通常の勤務が大部分を占めていた。(図 3)

表 2 調査対象者の属性

性別		
男性	74	79.6%
女性	19	20.4%
年齢		
20歳代	11	11.8%
30歳代	43	46.2%
40歳代	25	26.9%
50歳代	13	14.0%
60歳代	1	1.1%
70歳以上	0	0.0%
診療科		
内科	26	28.0%
外科	15	16.1%
小児科	9	9.7%
産婦人科	9	9.7%
脳神経外科	7	7.5%
救急科	7	7.5%
整形外科	5	5.4%
眼科	2	2.2%
形成外科	2	2.2%
リハビリテーション科	2	2.2%
泌尿器科	1	1.1%
麻酔科	1	1.1%
皮膚科	0	0.0%
その他	6	6.5%
無回答	1	1.1%
専門医の有無		
指導医である	27	29.0%
専門医を取得している (指導医は除く)	29	31.2%
専門医を取得するため専門研修中である	22	23.7%
専門医等未取得していない	10	10.8%
無回答	5	5.4%

図 3 常勤 (n=90) 者の勤務形態



## (2) 勤務時間の集計結果

1 週間の勤務時間については、全体では 59 時間 20 分、診療業務が 52 時間 07 分と大部分を占めていた。(表 3-1) 勤務先、性、年齢別にみると、30 代女性を除き男性で労働時間が長い傾向にあり (表 3-2)、診療科別には外科の労働時間が 70 時間 30 分と最も長かった。(表 3-3)

表 3-1 調査対象者の労働時間 (勤務形態別)

勤務形態	人数	労働時間	主たる勤務先				主たる勤務先以外			
			診療業務	診療外業務	宿日直	宅直等	診療業務	診療外業務	宿日直	宅直等
全体	93	59:20	52:07	5:19	7:59	7:54	1:32	0:20	1:46	0:19
常勤	90	59:50	52:37	5:15	7:43	8:09	1:35	0:21	1:50	0:19
非常勤・無回答	3	44:20	37:00	7:20	16:10	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00

表 3-2 常勤職員の勤務時間（病院種別・性別・年齢階級別）

病院種別	性別	年齢階級	人数	労働時間	主たる勤務先				主たる勤務先以外			
					診療業務	診療外業務	宿日直	宅直等	診療業務	診療外業務	宿日直	宅直等
大学病院	男性	20歳代	0									
		30歳代	9	52:36	42:36	4:16	4:10	14:00	5:03	0:40	11:30	0:00
		40歳代	2	41:37	33:15	3:52	8:00	0:30	3:30	1:00	20:00	0:00
		50歳代	0									
		60歳代	0									
	女性	20歳代	1	38:00	34:30	2:30	0:00	46:00	1:00	0:00	0:00	0:00
		30歳代	5	61:11	51:31	4:54	12:18	2:54	4:04	0:42	0:00	0:00
		40歳代	0									
		50歳代	0									
		60歳代	0									
大学病院 以外	男性	20歳代	5	69:42	64:54	3:54	4:42	2:06	0:00	0:54	3:06	0:00
		30歳代	25	62:17	56:23	4:37	10:46	10:31	0:48	0:28	0:14	0:00
		40歳代	16	65:45	57:31	6:35	7:34	6:11	1:37	0:00	0:00	0:00
		50歳代	13	55:56	48:10	6:23	4:39	9:34	1:09	0:13	0:00	1:04
		60歳代	1	52:00	41:30	10:30	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
	女性	20歳代	4	59:15	55:52	3:22	12:07	0:00	0:00	0:00	0:00	3:52
		30歳代	2	54:45	53:00	1:45	9:30	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
		40歳代	7	57:19	49:00	7:02	5:30	7:08	1:08	0:08	0:00	0:00
		50歳代	0									
60歳代	0											

表 3-3 常勤職員の勤務時間（診療科別）

診療科	人数	労働時間	主たる勤務先				主たる勤務先以外			
			診療業務	診療外業務	宿日直	宅直等	診療業務	診療外業務	宿日直	宅直等
内科	25	60:00	53:02	5:01	12:09	5:58	1:12	0:44	2:16	0:00
外科	15	70:30	61:56	5:48	3:28	12:56	2:30	0:16	4:36	1:02
小児科	9	52:56	45:26	5:10	6:50	6:26	1:46	0:33	1:23	0:00
産婦人科	9	51:32	41:41	8:07	1:33	11:26	1:36	0:06	1:36	1:33
眼科	2	51:08	47:36	3:32	0:00	12:00	0:00	0:00	0:00	0:00
泌尿器科	1	64:30	58:30	0:30	0:00	45:30	5:30	0:00	12:00	0:00
整形外科	5	67:53	59:26	6:39	6:02	13:54	1:48	0:00	0:00	0:00
脳神経外科	6	53:45	48:50	4:55	13:45	12:20	0:00	0:00	0:00	0:00
形成外科	2	62:27	56:17	1:15	0:00	0:00	3:10	1:45	0:00	0:00
救急科	7	57:30	51:21	4:51	4:47	0:00	1:17	0:00	0:00	0:00
麻酔科	1	43:30	35:30	0:00	0:00	0:00	8:00	0:00	0:00	0:00
リハビリテーション科	2	63:15	58:30	4:45	1:15	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
その他	6	60:10	54:50	4:10	19:15	2:55	1:10	0:00	0:00	0:00

(3) 自計式調査における勤務時間把握の方法の比較について

診療業務・診療外業務・休憩時間について、他形式調査と自計式調査の差を求めたところ、最も詳細な区分で調査を行うパターンⅠが、自計式・他計式の調査の差が小さい傾向にあった。(図4-1~4-3) その一方で、調査票を記載するためにかかった時間については、最も調査の粒度が細かいパターンⅠで

も、その次に粒度が細かいパターンⅡに比較して、記入時間の増は6.9分と1日あたり1分未満の増加にとどまった。(表4)

表4 調査票の記載に要した累計時間

パターンⅠ	32.4分
パターンⅡ	25.5分
パターンⅢ	18.7分
パターンⅣ	21.4分

図4-1 自計式・他計式の比較 (診療業務)

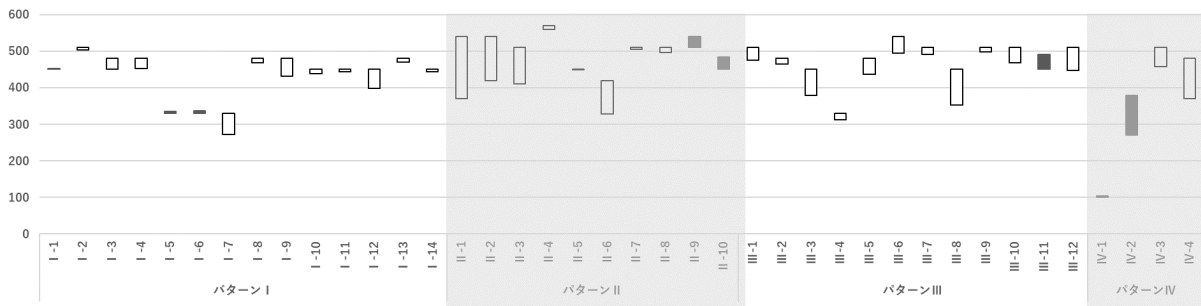


図4-2 自計式・他計式の比較 (診療外業務)

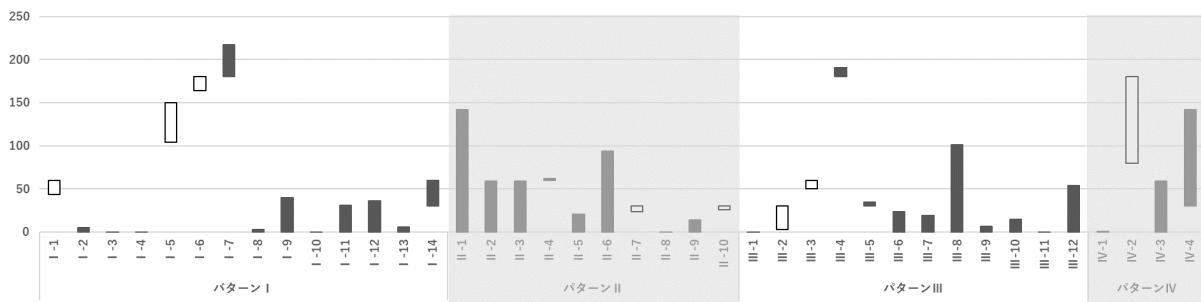
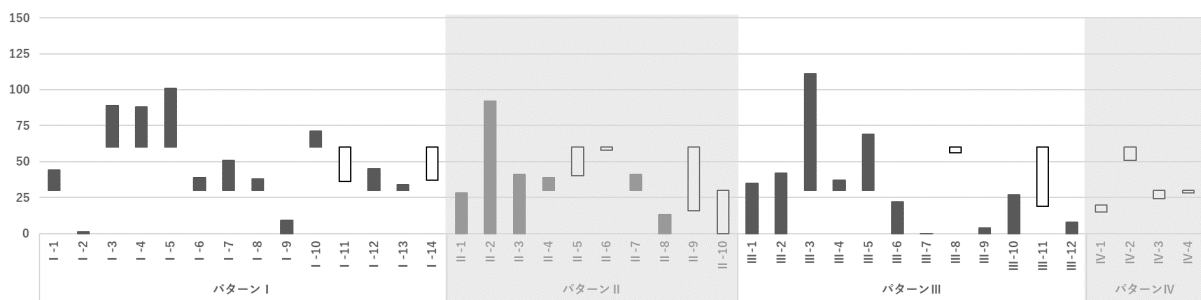


図4-3 自計式・他計式の比較 (休憩)



(4) 調査実施に当たっての課題について

調査協力者に、勤務時間を記載するタイミング、記載にあたって参照したものを聞いたところ、一日1回、勤務終了後の記載する者が4割と最も多く、次いで数日分をまとめて記載する者が約1/4であった。(表5) また、個人のスケジュール帳や(35.5%)や、電子カルテのログ時間(25.8%)を参照しながら調査に回答していた。(表6)

表5 記載のタイミング

	人数	割合
毎日、勤務終了後に当日分を記載	38	40.9%
毎朝、勤務開始前に前日分を記載	4	4.3%
数日分をまとめて記載	22	23.7%
1週間分をまとめて記載	17	18.3%
その他	5	5.4%
無回答	7	7.5%
合計	93	100.0%

表6 記載のために活用したもの【複数回答】

	人数	割合
医局の予定表	18	19.4%
電子カルテのログ時間	24	25.8%
個人的に使っているスケジュール表	33	35.5%
本調査のために作成したメモ	19	20.4%
その他	19	20.4%
総数	93	

業務区分に迷ったものの有無・およびその内容を、診療業務(図5、表7)、診療外業務(図6、表8)、宿直・日直(図7、表9)、宅直・オンコール(図8、表10)別に聞いたところ、迷ったことが「ある」と答えた者が最も多かったのが、診療外業務の16%であった。

図5 業務区分として迷うものの有無(診療業務)

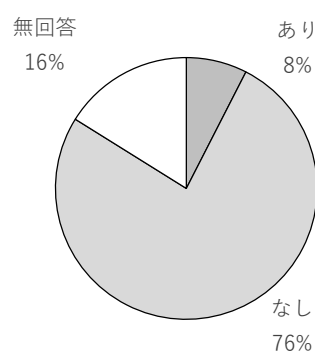


表7 診療業務のうち業務区分として迷うもの(自由記載)

- ・カンファレンス
- ・診療しながらの研修医教育
- ・外来診療の中での学生や研修医の指導
- ・病棟、外来、手術、検査を一つにまとめること
- ・検査待ち

図6 業務区分として迷うものの有無(診療外業務)

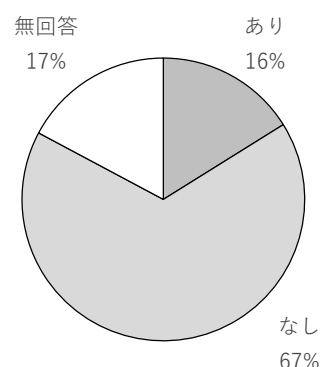


表8 診療外業務のうち業務区分として迷うもの(自由記載)

- ・症例についての文献検索など
- ・分類や指示の有無が難しい
- ・学会の準備、WEBの講習会
- ・病院から課せられた講義ビデオの視聴
- ・学会発表準備、抄読会準備
- ・科内症例検討や勉強会の用意、新規導入の医療材料の予習
- ・レセプト、新しい電子カルテのためのパスや指示コメント作成などの事務作業
- ・朝礼、抄読会、医局会、Webカンファレンス、講演のためのスライド作成
- ・自己研鑽、昼食、朝食
- ・webでの会議(同時に診療業務することあり)
- ・上司から依頼された院外の医療者に対する研修会
- ・退院サマリー、保険の診断書の作成

図7 業務区分として迷うものの有無（宿直、日直）

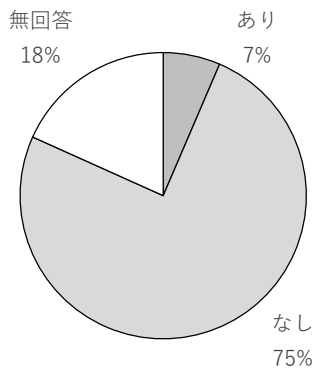


表9 宿直、日直のうち業務区分として迷うもの（自由記載）

- ・電話対応（深夜帯、割りづらい）

図8 業務区分として迷うものの有無（宅直、オンコール）

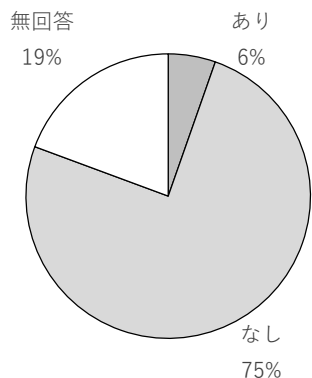


表10 宅直、オンコールのうち業務区分として迷うもの（自由記載）

- ・休日オンコールのため病院に来て回診することを診療業務にしたが、オンコールとした方がいがかからなかった。
- ・電話対応（深夜帯、割りづらい）
- ・決められたオンコールはないが、小児循環器で2人体制のため常にオンコールのような状況あり。急変やトラブルに備えて病院に残っている時間帯の業務区分は迷うことあり。

診療外（研究、教育、研鑽、その他）の時間に、上司等からの指示（黙示的な指示を含む。）

のない活動は約半数（47%）が行っていた（図9）が、上司等からの指示（黙示的な指示を含む。）の有無について迷った活動があったと答えた者は7%であった。（図10）

図9 診療外（研究、教育、研鑽、その他）の時間に、上司等からの指示（黙示的な指示を含む。）のない活動の実施状況

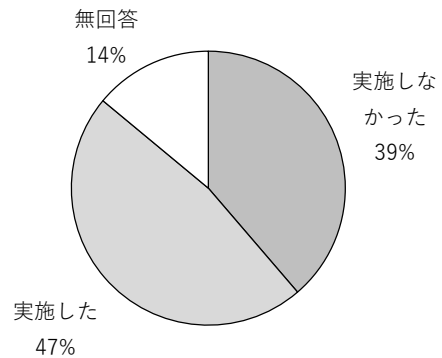


表11 診療外の時間に、上司等からの指示のない活動の具体的な内容（自由記載）

- ・論文作成、論文査読、依頼原稿の作成
- ・臨床研究
- ・予後調査作成（救急隊用）など
- ・専門書の読書、死生学研究会への参加
- ・病棟管理
- ・入院患者の採血チェック、サマリー、学会発表の準備
- ・専門医試験勉強
- ・新しい電子カルテに向けての新規入力作業、コメディカルやSEとの打合せ、手術計画のための業者さんとの打合せ
- ・消防などの他施設との協議等、どうしても必要なもの
- ・週間予定表の作成、外来の予習や復習（カルテ記載など）
- ・手術の予習、復習
- ・講演（レクチャー）の準備
- ・研修医のレクチャーのスライド作り、教育など
- ・学会のスライド作りや研究のデータ解析、学会から頼まれている委員会活動のための作業など
- ・学会のオンデマンド配信を視聴
- ・科内症例検討や勉強会の用意、新規導入の医療材料の予習
- ・英語の教科書の翻訳、読み合わせ（勉強会）、臨床の疑問点の論文検査など
- ・医師会への報告、会議、勤務表作成、開業医対応
- ・医学書の参考書、ネットを用いての医学的知識の取得



図 10 診療外の時間として、上司等からの指示（黙示的な指示を含む。）の有無について迷った活動の有無

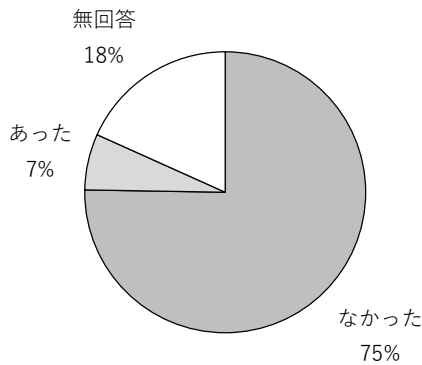


表 12 診療外の時間に、上司等からの指示の有無について迷ったものの具体的な内容（自由記載）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅にて行った授業の準備、自己研鑽の時間等は記載していません。おおむね自宅で1.5～2時間行っています。</li> <li>・J-OSLER 症例登録、レポートなど</li> <li>・科内症例検討や勉強会の用意、新規導入の医療材料の予習</li> <li>・専門医試験に関する情報収集等</li> <li>・上司から依頼されて行った院外医療者に対する研修会（病院から対価あり）</li> </ul>
--

また、勤務時間調査への回答の方法について、質問紙、パソコン、スマホ・タブレットのいずれの方法がやりやすいか複数回答で聞いたところ、質問紙(35.5%)スマホ・タブレット(36.6%)と回答した者がほぼ拮抗していた。(表 12)

表 12 1週間分の日々の勤務時間についての望ましい回答方法【複数回答】

	人数	割合
質問紙	33	35.5%
パソコン	18	19.4%
スマートフォン、タブレット	34	36.6%
無回答	13	14.0%
総数	93	

#### (5) 医師・施設のそれぞれが把握する勤務時間について

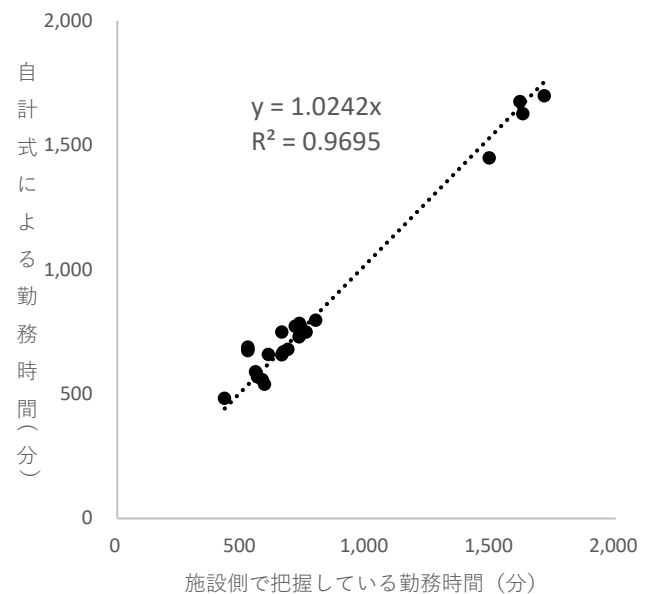
医師票から得られた出勤時間と退勤時間の記録と、施設票から得られた施設側が把握している医師の勤務時間について比較した。24名の医師について、医師票・施設票の双方に勤務時間の記載があった。

施設側で把握している勤務時間と医師が把握している勤務時間を散布図に示した。

(図 11)

回帰直線は  $y = 1.0242x$  で  $R^2 = 0.995$  となっていた。

図 11 施設側で把握している勤務時間と自計式調査による勤務時間の把握 (n=24)



#### D. 考察

##### (1) 自計式勤務状況把握における課題について

自計式の勤務状況把握を行う際には、多くの情報を得ようと詳細に調査を行えば、詳細

な分析が可能となる一方、記入者負担増・引いては回収率の低下につながるというトレードオフの関係にあると考えられる。本研究では、調査員による他計式調査を過去の医師の勤務実態調査で用いられた方法等を参考に作成された4種類の自計式調査と比較することで、このトレードオフの関係を明らかにすることを試みた。

過去の医師の勤務実態把握のための自計式大規模調査では、平成28年度調査で「診療」・「診療外」・「当直・オンコール」の3区分を、令和元年度調査で、診療外業務に「指示の有無」を加え、「宿直・日直」「当直・オンコール」を加え、さらに、主たる勤務先・従たる勤務先にわけ、「睡眠」を調査している。両調査は、医師の時間外労働の上限規制のための基準作りにも活用されており、次年度の大規模調査でも過去2回の調査との比較可能性の維持は重要な課題である。

今回の調査では、パターン1が、令和元年度調査で1区分としていた診療外業務を研究・教育・研鑽の3区分に分けるとともに、休憩時間についても調査することで診療外業務を中心に医師の勤務実態をより詳細に把握することが可能となるが、調査の負担はもっとも重くなるものであった。パターン2では、令和元年度調査を踏襲したもの、パターン3は、平成28年度調査を踏襲(ただし、「宿直・日直」「当直・オンコール」を分けている)ものであり、パターンⅠ、Ⅱ、Ⅲの順に、記入者負担は減少するものの、より簡略な調査となっている。

今回の結果からは、1週間の勤務状況調査

の粒度が細くなるごとに7分程度ずつ記入時間が増加になっていた。これは、1日分にすれ約1分程度であり、各調査における目的と記入者負担の比較を考える上で有益な知見が得られたと考えられる。

なお、パターン4は、矢印ではなく、時間を直接聞いているもので、将来、継続的に自計式で調査を行うならば、集計が容易であるかどうか重要な論点となりうるため今回調査票として採用されたものである。ただ、このような形の調査は、記入者がそれぞれ時間を記入する際に、業務区分を自ら判断し、時間を記入するという点では、一定の記入者負担を発生させるものであり、実際にも平成元年度調査とほぼ同レベルの時間になっており、記入者負担が一定程度かかっている点には留意が必要と考えられる。

調査後のアンケート調査からは、診療外業務について記入者が区分に迷う場合が多いと回答しており、複数の業務を同時並行で実施する場合がある他、自己研鑽と業務との区分について迷っている場合が多いことがうかがわれる。これらについては、国も、「医師の研鑽に係る労働時間に関する考え方について」(令和元年7月1日 基発 0701 第9号労働基準局長通達) や「医師等の宿日直許可基準及び医師の研鑽に係る労働時間に関する考え方 についての運用に当たっての留意事項について」(令和元年7月1日 基監発 0701 第1号労働基準局監督課長通達) を発出し基準の明確化には努めているものの、診療現場の医師にとっては、まだまだ苦勞する部分もあるものと思われる。来年度実施す

る大規模調査においては、今回の調査で明らかになった疑問点が生じないように、調査依頼の際や調査票の設計の点でも留意が必要と考えられる。

### (2) 施設側・医師側の勤務時間把握の状況について

勤務時間の把握については、施設側からの回答が少なく、解釈が難しい部分もあるが、本人の把握する勤務時間と施設側の把握する勤務時間がほぼ一致していることが明らかになった。ただし、今回の調査で把握しているのが、労働時間ではなく勤務時間であり、休憩時間や自己研鑽の時間を除いた医師の労働時間を医療施設側がどこまで正確に把握することができるかは、今後の課題となるだろう。

労働時間の把握については「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン(平成29年1月20日策定)」があり、医療機関としてどのように労働時間を正確に把握することができるかは今後も重要な課題となるだろう。

### (3) 本研究の限界について

本研究にはいくつか限界がある。本調査は、新型コロナの流行が収まらない中での調査実施となったため、調査協力医療機関の確保が非常に困難となり、当初計画していた協力者数を確保できなかった医療機関も少なからず存在した。また、対象医療機関は地域、規模を、また協力を得る医師についても、診療科や年代について考慮して依頼している

ものの、サンプル数が少ないこと、調査の実施にあたって、医療施設側にも負担がかかる調査に協力を得られていること、個別に医療機関と詳細な打合せを行っていることも踏まえると、働き方改革に向け意識が高い集団であることが想定され、代表性という点では課題が残る。ただ、本研究の調査目的は、勤務実態の把握の方法として、どのような粒度で勤務時間を報告することが適切か、また、記入にあたってどのような点で困難を生じている科を把握するという研究目的の上では、必要な情報は得られたものと考えている。

## E. 結論

過去の調査形式を踏襲する場合、詳細な調査にすれ自計式、他計式の差は小さくなるものの、記入者負担は増加しており、勤務時間の把握の目的にそった調査票の設計が重要である。また、記入者負担増は回収率にも直結する問題であり、回収率を上げるための取組が必要である。勤務状況を把握する上では、診療外の業務の範囲について、医師側は分類が困難であるものがあると感じており、調査票の設計上の工夫に加え、労働時間の範囲に関する周知活動の重要性が改めて示唆されたものと考えている。

## F. 研究発表

該当無し

G. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し

## 令和3年度厚生労働行政推進調査事業

## 医師の勤務環境把握に関する調査

◎特に断りのない場合、令和3年10月1日現在の貴施設の状況についてご回答ください。

① 所在地	<input type="text"/> 都・道・府・県 <input type="text"/> 市・区・町・村																						
② 施設種別	01 病院（大学病院以外）	02 病院（大学病院）																					
③ 指定等 (※) 該当するものすべてに○をつけてください。	01 医育機関 02 臨床研修病院 03 専門医の研修施設 ⇒ 該当する基本領域 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>11 内科</td> <td>12 小児科</td> <td>13 皮膚科</td> </tr> <tr> <td>14 精神科</td> <td>15 外科</td> <td>16 整形外科</td> </tr> <tr> <td>17 産婦人科</td> <td>18 眼科</td> <td>19 耳鼻咽喉科</td> </tr> <tr> <td>20 泌尿器科</td> <td>21 脳神経外科</td> <td>22 放射線科</td> </tr> <tr> <td>23 麻酔科</td> <td>24 病理</td> <td>25 臨床検査</td> </tr> <tr> <td>26 救急科</td> <td>27 形成外科</td> <td>28 リハビリテーション科</td> </tr> <tr> <td>29 総合診療</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		11 内科	12 小児科	13 皮膚科	14 精神科	15 外科	16 整形外科	17 産婦人科	18 眼科	19 耳鼻咽喉科	20 泌尿器科	21 脳神経外科	22 放射線科	23 麻酔科	24 病理	25 臨床検査	26 救急科	27 形成外科	28 リハビリテーション科	29 総合診療		
11 内科	12 小児科	13 皮膚科																					
14 精神科	15 外科	16 整形外科																					
17 産婦人科	18 眼科	19 耳鼻咽喉科																					
20 泌尿器科	21 脳神経外科	22 放射線科																					
23 麻酔科	24 病理	25 臨床検査																					
26 救急科	27 形成外科	28 リハビリテーション科																					
29 総合診療																							
④ 許可病床数	一般病床 <input type="text"/> 床 療養病床 <input type="text"/> 床 精神病床 <input type="text"/> 床 結核病床 <input type="text"/> 床 感染症病床 <input type="text"/> 床																						
⑤ 標榜診療科目 (※) 該当するものすべてに○をつけてください。	01 内科 02 呼吸器内科 03 循環器内科 04 消化器内科（胃腸科） 05 腎臓内科 06 神経内科 07 糖尿病内科（代謝内科） 08 血液内科 09 皮膚科 10 アレルギー科 11 リウマチ科 12 感染症内科 13 小児科 14 精神科 15 心療内科 16 外科 17 呼吸器外科 18 心臓血管外科 19 乳腺外科 20 気管食道外科 21 消化器外科（胃腸外科） 22 泌尿器科 23 肛門外科 24 脳神経外科 25 整形外科 26 形成外科 27 美容外科 28 眼科 29 耳鼻咽喉科 30 小児外科 31 産婦人科 32 産科 33 婦人科 34 リハビリテーション科 35 放射線科 36 麻酔科 37 病理診断科 38 臨床検査科 39 救急科 40 歯科 41 矯正歯科 42 小児歯科 43 歯科口腔外科																						
⑥ 医師数	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>常勤 (実人員)</th> <th>非常勤 (常勤換算)</th> <th>臨床研修医 (実人員)</th> <th>後期研修医 (実人員)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性医師</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>女性医師</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> </tbody> </table>		常勤 (実人員)	非常勤 (常勤換算)	臨床研修医 (実人員)	後期研修医 (実人員)	男性医師	人	人	人	人	女性医師	人	人	人	人	<p>(※) 雇用形態に関わらず、貴施設が定める1週間の勤務時間（所定労働時間）の全てを勤務している場合は「常勤」、勤務していない場合は「非常勤」としてお答えください。</p> <p>(※) 非常勤医師の常勤換算の算出については、非常勤医師の1週間の勤務延べ時間数（残業は除く）を、貴施設において常勤の医師が勤務すべき1週間の時間数（所定労働時間）で割り、小数点以下第2位を四捨五入してください。</p>						
	常勤 (実人員)	非常勤 (常勤換算)	臨床研修医 (実人員)	後期研修医 (実人員)																			
男性医師	人	人	人	人																			
女性医師	人	人	人	人																			
⑦ 2024年度からの医師の時間外労働の適用 (※) 該当するものすべてに○をつけてください。	01 A水準	02 B水準	03 連携B水準																				
	04 C1水準	05 C2水準																					
⑧ 宿日直勤務の労働基準監督署の許可の取得状況	01 許可を得ている	02 許可は得ていない																					

20  
ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

## 医師票の協力者一覧

- ◎ 医師票にご協力いただきました医師の「雇用形態」、「他計式の調査日の勤務時間」をご記入ください。なお、「勤務時間合計」には外勤先での勤務時間も含めた時間をご記入ください。
- ◎ また、「他計式の調査日の勤務時間」が、医師本人からの「申告」によるものか、本人申告以外の方法（タイムカード等）による把握した「実績」のものかについてもお選びください。なお、貴施設での通常の勤務管理の方法により把握された時間をご記入ください。

ID	雇用形態	他計式の調査日の勤務時間	←左記の勤務時間の補足方法
1	01 常勤 (⇒ 通常の勤務・裁量労働制・交替勤務制・変形労働制・その他)	勤務時間合計 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
	02 非常勤	上記のうち、外勤先の勤務時間 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
2	01 常勤 (⇒ 通常の勤務・裁量労働制・交替勤務制・変形労働制・その他)	勤務時間合計 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
	02 非常勤	上記のうち、外勤先の勤務時間 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
3	01 常勤 (⇒ 通常の勤務・裁量労働制・交替勤務制・変形労働制・その他)	勤務時間合計 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
	02 非常勤	上記のうち、外勤先の勤務時間 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
4	01 常勤 (⇒ 通常の勤務・裁量労働制・交替勤務制・変形労働制・その他)	勤務時間合計 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
	02 非常勤	上記のうち、外勤先の勤務時間 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
5	01 常勤 (⇒ 通常の勤務・裁量労働制・交替勤務制・変形労働制・その他)	勤務時間合計 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
	02 非常勤	上記のうち、外勤先の勤務時間 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
6	01 常勤 (⇒ 通常の勤務・裁量労働制・交替勤務制・変形労働制・その他)	勤務時間合計 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
	02 非常勤	上記のうち、外勤先の勤務時間 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
7	01 常勤 (⇒ 通常の勤務・裁量労働制・交替勤務制・変形労働制・その他)	勤務時間合計 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績
	02 非常勤	上記のうち、外勤先の勤務時間 _____ 時間 _____ 分	01 申告 02 実績

# 令和3年度厚生労働行政推進調査事業 医師の勤務環境把握に関する調査

ID	
----	--

問1 ご本人の情報についてお答えください。(令和3年10月1日現在)

① 年齢	20 歳代・30 歳代・40 歳代・50 歳代・60 歳代
② 性別	01 男性                      02 女性                      03 回答しない
③ 医籍登録年	西暦 <input style="width: 50px;" type="text"/> 年
④ 雇用形態	01 常勤 ⇒ 勤務形態 <input style="width: 500px;" type="text"/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 5px;">         11 通常の勤務      12 裁量労働制      13 交替勤務制          14 変形労働時間制    15 その他（フレックスタイムなど）       </div>
⑤ 主たる診療科 ※ ○は1つ ※ 主に従事する診療科を選択 ※ 臨床研修医は20を選択 ※ 身体や臓器等を含む診療科 （○○内科や△△外科など）を主たる診療科としている場合は、01 内科や02 外科を選択	01 内科      02 外科      03 小児科      04 産婦人科      05 精神科 06 皮膚科    07 眼科      08 耳鼻咽喉科    09 泌尿器科      10 整形外科 11 脳神経外科    12 形成外科    13 救急科      14 麻酔科      15 放射線科 16 リハビリテーション科    17 病理診断科    18 臨床検査科    19 総合診療科    20 臨床研修医 21 その他（                      ）
⑥ 専門医等資格の有無	01 ⑦に掲げる指導医である 02 ⑦に掲げる専門医を取得している（指導医は除く） 03 ⑦に掲げる専門医を取得するため専門研修中である 04 ⑦に掲げる専門医等未取得していない
※ ⑦は、で「01 ⑦に掲げる指導医である」又は「⑦に掲げる専門医を取得している（01 以外）」と回答された方のみ、該当する専門医資格を全てお選びください。	
⑦ 保有専門医資格 ※ 該当するもの全てに○ ※ 「01 内科」には、総合内科専門医を含む ※ 認定医は除く	《基本 19 領域》※専門医のみ認定医を除く 01 内科※      02 外科      03 小児科      04 産婦人科      05 精神科 06 皮膚科      07 眼科      08 耳鼻咽喉科    09 泌尿器科      10 整形外科 11 脳神経外科    12 形成外科    13 救急科      14 麻酔科      15 放射線科 16 リハビリテーション科    17 病理      18 臨床検査      19 総合診療

## 《パターンI》

問2 調査期間(7日間)の労働時間等について、下記の注意事項・用語の定義を参考に記入してください。

### 注意事項

- ・主たる勤務先だけでなく、その他の勤務先の労働時間等についてもあわせて記入してください。
- ・「勤務日」「休日」のうち、該当するもの一つに○を付けてください。休日(一日を通して通常の勤務が課せられていない日)の場合は、労働時間等の記入は不要です。
- ・「出勤時刻」には主たる勤務先に出勤した時刻を「退勤時刻」には主たる勤務先から退勤した時刻を記入してください。
- ・労働時間は30分単位で記入してください。30分に満たない場合は、その30分で最も多くの時間を費やした領域を選んで記入してください。
- ・「宿直・日直」「宅直・オンコール」には該当する時間を矢印で記入し、そのうち実際に患者に対して診療等の対応を行った時間を「診療」欄に、下記診療外業務を行った場合は「診療外」欄に矢印で記入してください(「宿直・日直」「宅直・オンコール」として記入した矢印と重複して記入してください)。
- ・「指示無」には、診療外の「教育」「研究」「研鑽」「その他の業務」の時間のうち、上司等からの指示(黙示的な指示を含む)がない時間について矢印を重複して記入してください。  
※上司等からの明示的な指示がなくても、勤務先から当然求められていると考えられる水準の研鑽行為であれば、上司等からの指示があったものとして矢印を記入しないでください。なお、労働時間に該当するかは、労働者の行為が使用者の指揮命令下に置かれたものと評価できるかにより、客観的に定まるものであり、個別具体的に判断されるものです。
- ・「睡眠(仮眠を含む)」には、「宿直・日直」「宅直・オンコール」中の睡眠時間と帰宅してからの睡眠時間を矢印で記入してください(「宿直・日直」「宅直・オンコール」として記入した矢印と重複して記入してください。退勤後、帰宅してからの睡眠時間も矢印の記入をお願いします)。

## 《用語の定義》

### 診療業務

- ・外来・入院・在宅患者それぞれの診察・治療・説明等に費やした時間。直接患者に接していなくても、患者の診療のための移動時間、患者のために行った事務作業やカンファレンスの時間、患者の診療のための調査や学習の時間は「外来診療」「入院診療」「在宅診療」の時間と考えてください。

### 診療外業務 (診療以外の下記4つの業務を行った場合)

- ・**研究** 実験や調査、論文執筆等に費やした時間。また、研究に伴う事務作業やカンファレンスの時間も「研究」の時間と考えてください。
- ・**教育** 医学部等学生・研修医・看護師等コメディカル職種・事務職員への教育やその準備に費やした時間。
- ・**研鑽** 学習(例:医学雑誌や医学書に目を通す)や研修(例:講習会・講演会・説明会等への参加)のために費やした時間。
- ・**その他の業務** 会議・管理業務(外来・入院・在宅患者の診療に直接関係のない会議や委員会への参加、経営・人事等に関する業務)や学校医・産業医等の地域医療活動、講演などに費やした時間。

### 宿直・日直

通常の勤務時間とは別に、**院内に待機して**応急患者に対して診療等の対応を行う勤務で、労働基準監督署の宿日直許可基準の届出の有無を問わない。(なお、宿直は夜間の勤務帯に行うものを指します。)

### 宅直・オンコール

通常の勤務時間とは別に、**院外に待機して**応急患者に対して診療等の対応を行う勤務で、所属する診療科等で呼び出しに備えて当番制で行う待機勤務。

### 主たる勤務先以外での勤務

主たる勤務先を退勤後、その他の医療機関で勤務した場合には、その時間を **勤務の種別ごとに**矢印で記入してください。(※勤務の種別は、主たる勤務先での勤務の種別(診療業務・診療業務)を参照してください。)

### 休憩(食事を含む)

**休憩時間(業務を行わず、食事や休養等に費やした時間)**を矢印で記入してください。

### 睡眠(仮眠を含む)

**「宿直・日直」「宅直・オンコール」中の睡眠時間(主たる勤務先以外での勤務時間の睡眠時間を含む)と帰宅してからの睡眠時間**を矢印で記入してください。

※調査期間中のすべての睡眠時間(仮眠を含む)を矢印で記入してください。



勤務状況 : 勤務日・休日

出勤時刻 : \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 \_\_\_\_時 \_\_\_\_分

退勤時刻 : \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 \_\_\_\_時 \_\_\_\_分

	診療業務	診療外業務					宿直・日直	宅直・オンコール	主たる勤務先以外での勤務							休憩 (食事を含む)	睡眠 (仮眠を含む)
		研究	教育	研鑽	その他	←診療外業務の内指示無			診療業務	研究	教育	研鑽	その他	←診療外業務の内指示無	宿直・日直		
6:00																	
7:00																	
8:00																	
9:00																	
10:00																	
11:00																	
12:00																	
13:00																	
14:00																	
15:00																	
16:00																	
17:00																	
18:00																	
19:00																	
20:00																	
21:00																	
22:00																	
23:00																	
0:00																	
1:00																	
2:00																	
3:00																	
4:00																	
5:00																	
6:00																	

◎ 1回に15分未満の休憩だったため、「休憩」として矢印を引かなかった時間は、合計何分くらいありましたでしょうか。

1回に15分未満の休憩時間の合計 : \_\_\_\_\_分程度

## 《パターンⅡ》

問2 調査期間(7日間)の労働時間等について、下記の注意事項・用語の定義を参考に記入してください。

### 注意事項

- ・主たる勤務先だけでなく、その他の勤務先の労働時間等についてもあわせて記入してください。
- ・「出勤時刻」には主たる勤務先に出勤した時刻を「退勤時刻」には主たる勤務先から退勤した時刻を記入してください。
- ・労働時間は30分単位で記入してください。30分に満たない場合は、その30分で最も多くの時間を費やした領域を選んで記入してください。
- ・「宿直・日直」「宅直・オンコール」には該当する時間を矢印で記入し、そのうち実際に患者に対して診療等の対応を行った時間を「診療」欄に、下記診療外業務を行った場合は「診療外」欄に矢印で記入してください(「宿直・日直」「宅直・オンコール」として記入した矢印と重複して記入してください)。
- ・休憩時間(業務を行わず、食事や休養等に費やした時間)は、空欄にして矢印を記入しないでください。

### 《用語の定義》

#### 診療業務

- ・外来・入院・在宅患者それぞれの診察・治療・説明等に費やした時間。直接患者に接していなくても、患者の診療のための移動時間、患者のために行った事務作業やカンファレンスの時間、患者の診療のための調査や学習の時間は「外来診療」「入院診療」「在宅診療」の時間と考えてください。

#### 診療外業務(診療以外の下記4つの業務を行った場合。上司等の指示のない時間\*は含めないでください。)

- ・**研究** 実験や調査、論文執筆等に費やした時間。また、研究に伴う事務作業やカンファレンスの時間も「研究」の時間と考えてください。
- ・**教育** 医学部等学生・研修医・看護師等メディカル職種・事務職員への教育やその準備に費やした時間。
- ・**研鑽** 学習(例：医学雑誌や医学書に目を通す)や研修(例：講習会・講演会・説明会等への参加)のために費やした時間。
- ・**その他の業務** 会議・管理業務(外来・入院・在宅患者の診療に直接関係のない会議や委員会への参加、経営・人事等に関する業務)や学校医・産業医等の地域医療活動、講演などに費やした時間。

※上司等からの明示的な指示がなくても、勤務先から当然求められていると考えられる水準の研鑽行為であれば、上司等からの指示があったものとして矢印を記入してください。なお、労働時間に該当するかは、労働者の行為が使用者の指揮命令下に置かれたものと評価できるかにより、客観的に定まるものであり、個別具体的に判断されるものです。

#### 宿直・日直

通常の勤務時間とは別に、**院内に待機して**応急患者に対して診療等の対応を行う勤務で、労働基準監督署の宿日直許可基準の届出の有無を問わない。(なお、宿直は夜間の勤務帯に行うものを指します。)

#### 宅直・オンコール

通常の勤務時間とは別に、**院外に待機して**応急患者に対して診療等の対応を行う勤務で、所属する診療科等で呼び出しに備えて当番制で行う待機勤務。

#### 主たる勤務先以外での勤務

主たる勤務先を退勤後、その他の医療機関で勤務した場合には、その時間を勤務の種別ごとに矢印で記入してください。(※勤務の種別は、主たる勤務先での勤務の種別(診療業務・診療業務)を参照してください。)



## 《パターンⅢ》

問2 調査期間(7日間)の労働時間等について、下記の注意事項・用語の定義を参考に記入してください。

### 注意事項

- ・主たる勤務先だけでなく、その他の勤務先の労働時間等についてもあわせて記入してください。
- ・「勤務日」「休日」のうち、該当するもの一つに○を付けてください。休日(一日を通して通常の勤務が課せられていない日)の場合は、労働時間等の記入は不要です。
- ・「出勤時刻」には主たる勤務先に出勤した時刻を「退勤時刻」には主たる勤務先から退勤した時刻を記入してください。
- ・労働時間は30分単位で記入してください。30分に満たない場合は、その30分で最も多くの時間を費やした領域を選んで記入してください。
- ・「宿直・日直」「宅直・オンコール」には該当する時間を矢印で記入し、そのうち実際に患者に対して診療等の対応を行った時間を「診療」欄に、下記診療外業務を行った場合は「診療外」欄に矢印で記入してください(「宿直・日直」「宅直・オンコール」として記入した矢印と重複して記入してください)。
- ・休憩時間(業務を行わず、食事や休養等に費やした時間)は、空欄にして矢印を記入しないでください。

### 《用語の定義》

#### 診療業務

- ・外来・入院・在宅患者それぞれの診察・治療・説明等に費やした時間。直接患者に接していなくても、患者の診療のための移動時間、患者のために行った事務作業やカンファレンスの時間、患者の診療のための調査や学習の時間は「外来診療」「入院診療」「在宅診療」の時間と考えてください。

#### 診療外業務 (診療以外の下記4つの業務を行った場合。上司等の指示のない時間\*は含めないでください。)

- ・**研究** 実験や調査、論文執筆等に費やした時間。また、研究に伴う事務作業やカンファレンスの時間も「研究」の時間と考えてください。
- ・**教育** 医学部等学生・研修医・看護師等メディカル職種・事務職員への教育やその準備に費やした時間。
- ・**研鑽** 学習(例：医学雑誌や医学書に目を通す)や研修(例：講習会・講演会・説明会等への参加)のために費やした時間。
- ・**その他の業務** 会議・管理業務(外来・入院・在宅患者の診療に直接関係のない会議や委員会への参加、経営・人事等に関する業務)や学校医・産業医等の地域医療活動、講演などに費やした時間。

※上司等からの明示的な指示がなくても、勤務先から当然求められていると考えられる水準の研鑽行為であれば、上司等からの指示があったものとして矢印を記入してください。なお、労働時間に該当するかは、労働者の行為が使用者の指揮命令下に置かれたものと評価できるかにより、客観的に定まるものであり、個別具体的に判断されるものです。

#### 宿直・日直

通常の勤務時間とは別に、**院内に待機して** 応急患者に対して診療等の対応を行う勤務で、労働基準監督署の宿日直許可基準の届出の有無を問わない。(なお、宿直は夜間の勤務帯に行うものを指します。)

#### 宅直・オンコール

通常の勤務時間とは別に、**院外に待機して** 応急患者に対して診療等の対応を行う勤務で、所属する診療科等で呼び出しに備えて当番制で行う待機勤務。



## 《パターンⅣ》

問2 調査期間（7日間）の労働時間等について、下記の注意事項・用語の定義を参考に記入してください。

### 注意事項

- ・主たる勤務先だけでなく、その他の勤務先の労働時間等についてもあわせて記入してください。
- ・「勤務日」「休日」のうち、該当するもの一つに○を付けてください。休日（一日を通して通常の勤務が課せられていない日）の場合は、労働時間等の記入は不要です。
- ・「出勤時刻」には主たる勤務先に出勤した時刻を「退勤時刻」には主たる勤務先から退勤した時刻を記入してください。
- ・労働時間は開始時刻と終了時刻を30分単位で記入して、「業務区分」と「勤務先」として該当するものそれぞれ一つに○を付けてください。30分に満たない場合は、その30分で最も多くの時間を費やした領域を選んで記入してください。
- ・休憩時間（業務を行わず、食事や休養等に費やした時間）は、記入しないでください。

### 《用語の定義》

#### 診療業務

- ・外来・入院・在宅患者それぞれの診察・治療・説明等に費やした時間。直接患者に接していなくても、患者の診療のための移動時間、患者のために行った事務作業やカンファレンスの時間、患者の診療のための調査や学習の時間は「外来診療」「入院診療」「在宅診療」の時間と考えてください。

#### 診療外業務（診療以外の下記4つの業務を行った場合。上司等の指示のない時間\*は含めないでください。）

- ・**研究** 実験や調査、論文執筆等に費やした時間。また、研究に伴う事務作業やカンファレンスの時間も「研究」の時間と考えてください。
- ・**教育** 医学部等学生・研修医・看護師等コメディカル職種・事務職員への教育やその準備に費やした時間。
- ・**研鑽** 学習（例：医学雑誌や医学書に目を通す）や研修（例：講習会・講演会・説明会等への参加）のために費やした時間。
- ・**その他の業務** 会議・管理業務（外来・入院・在宅患者の診療に直接関係のない会議や委員会への参加、経営・人事等に関する業務）や学校医・産業医等の地域医療活動、講演などに費やした時間。

※上司等からの明示的な指示がなくても、勤務先から当然求められていると考えられる水準の研鑽行為であれば、上司等からの指示があったものとして、労働時間に含めて記入してください。なお、労働時間に該当するかは、労働者の行為が使用者の指揮命令下に置かれたものと評価できるかにより、客観的に定まるものであり、個別具体的に判断されるものです。

勤務状況 : 勤務日・休日

出勤時刻 : \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分

退勤時刻 : \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分

開始時刻	終了時刻	業務区分				勤務先	
		1. 診療時間	2. 診療外時間	3. 宿直・日直	4. 宅直・パル	1. 主たる勤務先	2. 他の勤務先
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2
____時____分	~ ____時____分	1	2	3	4	1	2

問3 本調査でのご自身の労働時間の記載状況等についてお伺いします。

① 記載に要した時間	(1週間分の記載に要した累計時間) <input type="text"/> 分程度	
② 記載のタイミング	01 毎日、勤務終了後に当日分を記載 02 毎朝、勤務開始前に前日分を記載 03 数日分をまとめて記載 04 1週間分をまとめて記載 05 その他 ( )	
③ 記載のための活用したもの ※ 該当するもの全てに○	01 医局の予定表 02 電子カルテのログ時間 03 個人的に使っているスケジュール表 04 本調査のために作成したメモ 05 その他 ( )	
④ 業務区分として迷うものについて具体的に記入ください。	① 診療業務	01 あり(↓具体的に記載) 02 なし
	② 診療外業務	01 あり(↓具体的に記載) 02 なし
	③ 宿直・日直	01 あり(↓具体的に記載) 02 なし
	④ 宅直・オンコール	01 あり(↓具体的に記載) 02 なし
⑤ 診療外(研究、教育、研鑽、その他)の時間に、上司等からの指示(黙示的な指示を含む。)のない活動としてどのようなことをしましたか。		
01 上司等からの指示(黙示的な指示を含む。)のない活動はしなかった 02 上司等からの指示(黙示的な指示を含む。)のない活動をした(↓具体的に記載)		
⑥ 診療外の時間として、上司等からの指示(黙示的な指示を含む。)の有無について迷った活動がありましたら具体的に記入ください。		
01 上司等からの指示(黙示的な指示を含む。)の有無に迷った活動はない 02 上司等からの指示(黙示的な指示を含む。)の有無に迷った活動があった(↓具体的に記載)		
⑦ 1週間分の日々の勤務時間を回答する方法として、どの方法が望ましいですか。	01 質問紙	02 インターネット(パソコン) 03 インターネット(スマートフォン、タブレット)
⑧ 医師の勤務時間の把握の難しさ等についてご意見がありましたら、具体的に記入ください。		

設問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。